

おおやひめのみこととしんじや
大屋姫命神社

今回の往還行の舞台である大屋(おおや)とは、元来逢浜川の上流である大屋川の流域一帯を言つものだったが、明治二十二年、鬼村と大屋村の尾波(おなみ)・角折(つのおれ)を併せて今の形となった(「大屋村勢」沿革)。大字としての大屋は、畑谷(はただに)・地主(ぢぬ)・迫川(さこがわ)・高丸(たかまる)・菰口(こもぐち)の五地区からなり、特に大屋川下流部を下(しも)大屋、上流部を上(かみ)

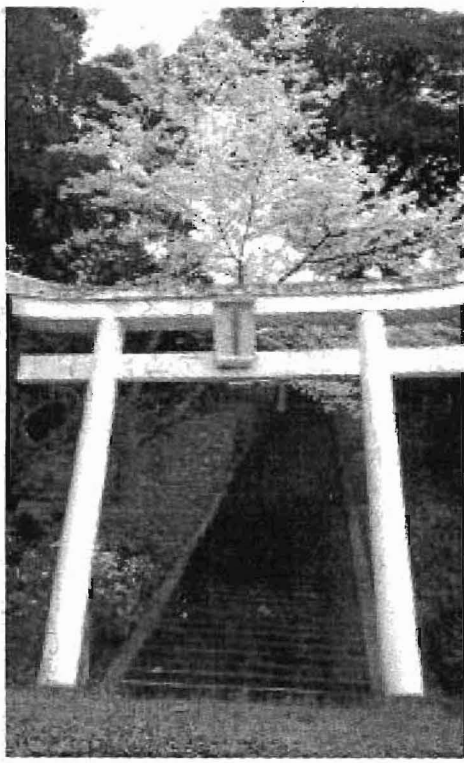
大屋一大森間の古道

② 続往還を行く

おつかん

三井淳

大屋とも呼ぶ。すらの山野で、居住地 屋には「大屋姫命神社」
鬼村は、吉沢 と田畑の高低差が著し が鎮座する。石見の郷 「…当かく申す神社
(よしざわ)・ い。上大屋から角折に 土史家として知られる なきを近頃村人の考に
大年(おおど 向かう途上の畑谷地区 藤井宗雄(一八二三) 比森なりと云へり。外
し)・八代(やしろ)・ が殊に際立っている。 一九〇六)に「石見国 に似よりたる神社も無
御崎(みさき)、大國 大屋とはそもそも、 神社記」があるが、大 冠したのは維新前後の
は、角折・中(なか) 日本書紀に登場するイ 屋村の項には大屋姫命 として、実は大屋姫を
尾波・上(かみ)尾波 ソタケルノミコトの妹 神社とは見当たらず、 ことであつた節(ふし)
からなる(「大屋村勢」 (いろも)「オオヤツン ただ「荒神社(あらが をにおわす。とはいえ
巻頭)。大屋町は海に ヒメノミコト」を負う みしゃ)」とのみある 大屋という地名の由緒
面することのないひた ているのであり、上大 (山崎亮翻刻版)。藤井 は確実に古い。十
一世紀の久利文書 (くりもんじよ) に見える「大屋河 尻(おおやかわじり)」が初見とい う(角川日本地名 大辞典32「島根 県一七八頁)。(五十猛歴史研 究会会員 みつい あつし)



大屋姫命神社

■日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おすすぬ新着
◇木曜日は内藤博之さんの「ガウディとヒガ